



十三日、全明全共闘結成大会が開かれた。しかし、社学同（ソント）は不参加で、足並みの乱れた大会となった。当初、五日の全明全共闘結成大会を前に、日に開催されることになってはいたが、M.T.ソントが組織論をめぐって真向うから対立、結局流産に終わった。その後、両者の歩みよりは今もみられず、十三日の大会はなにもなかった。この大会は、この全明全共闘をめぐって内ゲバの恐れもあり、監禁はよく聞かれます。この事件がこじれたのはセクト派主義であり、ムサシニをめぐる各派の思惑もある。カットは分裂以前の結成準備委員会（三十一日）。再び、両者がこのように対峙するのは

難産 全明全共闘

は、この口が——。ああ難産、全明全共闘。